

状態識別・行動識別からのアンビエント社会向けアシスト

富山県立大学工学部電子・情報工学科
1715013 江崎菜々

指導教員：奥原浩之

1 はじめに

日常的にいつでもどこでもコンピューターを通じてインターネットにつながるユビキタス社会にくらべアンビエント社会はいつでも、どこでも、誰でも、コンピューターを通してインターネットにつながり、人間の周囲にあるコンピューターが人間の操作を必要とせずに、自律的にサービス提供を行うことが浸透している社会である。[図 1]



図 1: アンビエント概要

アンビエントコンピューティングとは IOT を通じて情報の収集と操作を行なながら人間の指示に従い、指示が無くても行動パターンや予測機能によりデバイスやシステムを人間の代わりに検索するコンピューターを意味する。ユビキタスとの違いは操作主体がコンピュータか人間かある。[図 2] アンビエントコンピューティングの身近な例は自動ドアで、Alexa は音声認識で家電を動かしてできるので、アンビエント社会の入り口とも言われている。



図 2: ユビキタスとアンビエント

図 1 のアンビエントインテリジェンスを作成することで人間の動作における手間を省くことが可能になる。そこでセンサなどを用いて、人間の状態識別及び行動識別をしたのちその行動に準じた行動アシストできるシステムを考える。

2 従来の行動識別

2.1 状態識別

身体にセンサをつける、特殊なカメラで会撮影するなどをして人間の体温、心拍など生体情報をよみとりその数値によって健康、危険状態などを判断する。例をあげると本人の体調に応じて部屋の温度を変える、などがある。

2.2 行動識別

先ほどのセンサのほかに GPS、カメラを使い人間が何をしているか判断する。場所の情報から飯、勉強などを予測する。例としては安心ナビの運転中など。目標として人を感知して明かりがつくなどの不特定多数の人向けではなくて、個人を対象にし GPS などから個人の行動を認知したのちそれに適応したアシストをする。

2.3 スマートグラス AR

行動識別の仕方については、カメラを起動し画像から現在の日時と映っている内容を処理する方法が挙げられる。

- [1] カメラから画像を取得

- [2] 画像認識 API へ送信、返答される JSON データを取得

- [3] 日時を取得しファイルに保存

の流れでデータを取得する（暫定）



図 2: スマートグラス AR

3 構築システム概要

身体にカメラなどが搭載されたグラスと状態識別用のセンサをつける。被験者が行動を起こし、データを送信し識別処理を行う。その識別処理を送った先で状況ごとにアシスト処理を行う。出力はグラスに映し出す。[図 3] この時の処理行うのにラズパイを使うかクラウド使って送るなどの使う機材について検討中。

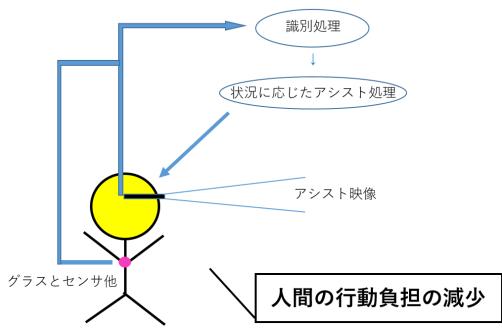


図 3: アシストイメージ

5 今後の予定

- [1] 現時点でのイメージが多いので先輩らの研究や先行研究の実例を詳しく見ながら本研究の概要を固める。
- [2] 行動識別の取得をマスターする。カメラ画像を文字に起こすところまではできたのでその情報から現在の行動を予測させることができるようとする。理想は組織化マップ (SOM) に起こす。
- [3] 行動のほかに状態識別をどう利用しどう活用するかを踏まえ行動アシストの具体例を考える。ターゲットは不特定多数が望ましいが身近な大学生向けを想定中。

参考文献

- [1] VUI で始まるアンビエント社会, <https://otonal.co.jp/blog/2964>
- [2] SmartGrasses2020, <https://komono.me/43337/2020101>
- [3] Life enument, "Report of Deploying Information Infrastructure of Hazzard Data", "No. 1.0, 2018.